

金沢市立朝日小学校
平成24年度後期 学力向上の取組

1 学校研究としての取組

(1) 年間計画

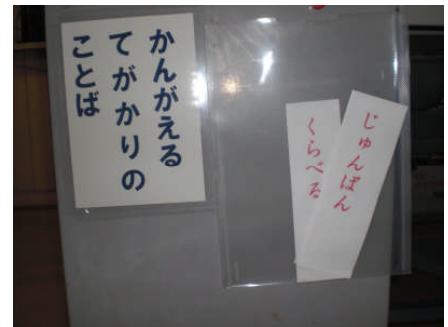
研究主題「自ら学び、心豊かでたくましい行動力をもつ児童の育成」
副題 ～ノート指導をとおして～

4月	5・6・7月	8月	9・10月	11月	12・1月	2月
研究の方向性 児童アンケート	研究授業①② 児童アンケート	学力テスト結果分析		研究授業③④ 児童アンケート		
書くことの徹底		検証	各学年・各教科における 「書く」姿のゴールを考えながら			朝日版 目指す 「書く」姿 の確立

(2) 研究の重点より

ア 書くことのスキル表の作成および評価の工夫

低・中・高での本校の発達段階と国語科の指導事項等を照らし合わせ、単元ごとに獲得すべきスキルを明確にする。実際にその単元で獲得したスキルを思考場面やまとめの段階で使えるよう、「考える手立て（てがかりのことば）」としてポケット式に積み上げていく。また、評価の観点を書き方（段落、順序、句読点など）と内容（題意に沿っているかなど）に分けて評価することで、つけたい力への的確なアプローチとなるようにする。



イ 書く力の基礎を養うための工夫（書くことの徹底）

それぞれの授業の中に①自分の考えを築くための「書く」時間、②学習したことを確かなものにするための「書く」時間を設け、何のために書くのかを児童に意識化させる。その際には、それぞれの「書く」活動の観点を絞り、評価することで書くことへの意欲を持たせるようにする。

- ①・・・自分の考えを構築する **矢印、図を使い、簡潔に**
- ②・・・自分の理解を自分で再認識する **文を整理して、丁寧に**

めざせ！ノート名人

- ①日付
- ②課題
- ③自分の考え
- ④まとめ（わかったこと）
- ⑤ふりかえり（感想）

見やすいノートのコツ

- ①間をあける（無理につめない）
- ②縦横をあわせる

このちづをつかって、ノート名人になるのじゃ

ノートは各の隣の身である。

わかりやすいノートのコツ

- ①大事な言葉
緑、色、大きさの工夫
- ②かじょう書き
- ③ふき出し、矢印、絵、図、かこみ

各教室に掲示し、意識を高める

2 学校生活全体における取組

(1) 学習規律の徹底

今まであった学習の約束を精選し、どの学年もこれだけは徹底しようという共通理解の下、日々の学習活動を行なう。特に、今月の生活目標と合致する際には、教師、児童全員ができた実感をもてるまで、月目標を継続させるなど、全校で取り組む。

学習の約束

- ★3分制行動（開始時刻で3分間に授業に戻る）
- ★姿勢（足先揃えて、背筋を伸ばす）
- ★整理整頓（ノートと教科書の片付けをしよう）
- ★自分の考えをもつ
- ★次の時間の準備をする（教科書・ノート・下駄・筆箱）

<p>書く力</p> <p>（書き方） （内容）</p>	<p>・日付、課題を書く ・読みやすい字で書く ・言葉以外のものも使って書く （大げさな書き）</p>
<p>聞く力</p> <p>（聞き方） （内容）</p>	<p>・相手を待てる ・比べて聞く</p>
<p>話し力</p> <p>（話し方） （内容）</p>	<p>・聞こえる声で ・相手を待てる ・結論→理由 ・他の意見とつなげて ・わかりやすく （相手・つなげる言葉）</p>

(2) 『自分から』の合い言葉

学力調査の結果より、どの教科においても、基礎的な学力については十分に身につけているといえるが、さらに表現力・思考力を高めていく必要のあることがわかった。これは、前年度からの引き続きの課題でもある。これは、自分で思考するよりすぐに知識を与えられる環境にあることがひとつの要因であると考え、後期からは「自分から」を合い言葉に児童らが自分で考え、行動する姿を見守るよう心掛ける。

3 その他の取組

(1) 読書

今年度は、年間目標読書冊数として高学年100冊、低学年150冊を設定し、朝読書の回数を週2回に増やした。

ア 朝日おすすめの本120冊

図書館司書に協力してもらい、1学年20冊前後のおすすめの本をピックアップした。階段に本の題名を張り出し、全員がどの本を読んだか見える形にすること（シールを貼る）で、児童同士が意識しあい、競って読む姿や、自分の学年の本を読破しようとする姿につなげたい。



イ 読書クイズ

おすすめの本の中の数冊にクイズを設定し、正解すると司書からアイテムシールをもらえる取組を継続する。児童の中には、しっかり読まずに次の本を手にとる児童もいるため、中身を読むことに対する意識付けができるよう取り組みたい。



本を読んだら、クイズに答えよう!

(2) 新聞

図書委員会が毎週月曜日のランチタイムに気になる記事を紹介している。児童は、今まで新聞にまったく興味を持っていなかったようだが、読んでみると面白かったとの声が聞かれ、高学年を中心に新聞に目を通す姿が見られるようになった。また、12月には、北陸中日新聞の記者を招き、記事の読み方についての出前授業も行う予定である。



(3) 家庭学習

学年×15分を家庭学習の時間と設定し、宿題以外の時間を読書や自学ノートに当てている。各自が持っている自学ノートは、自分自身で考えて学習が出来るよう、書き方についても適宜指導し、意欲的に自主学習に取り組めるようにする。また、月曜日はノーテレビ・ノーゲームデーとし、家庭学習ができる環境を意図的に作るようにする。